

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 7 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・H24/1/17 18:42 セシウム吸着装置を起動。18:45 定常流量に到達。
- ・H24/2/2 11:12 第二セシウム吸着装置を起動。11:15 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・2/7 14:14～ 移送開始
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・2/5 9:49～ 2/7 13:56 移送実施
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・2/7 10:00～16:00 移送予定なし

移送先	移送先の水位状況 (2/7 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 3,070 mm(水位上昇累計: 4,287 mm) 2/6 7:00 から 113 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 3,375 mm(水位上昇累計: 4,101 mm) 2/6 7:00 から 4 mm 上昇

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (2/7 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850 mm (2/6 7:00 と同じ)	O.P.+ 2,878 mm (2/6 7:00 から 17 mm 上昇)	O.P.+ 4,279 mm (2/6 7:00 から 23 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 3,116 mm (2/6 7:00 から 80 mm 上昇)	O.P.+ 3,080 mm (2/6 7:00 から 72 mm 上昇)	O.P.+ 3,247 mm (2/6 7:00 から 68 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,014 mm (2/6 7:00 から 10 mm 下降)	O.P.+ 2,923 mm (2/6 7:00 から 15 mm 下降)	O.P.+ 3,231 mm (2/6 7:00 から 15 mm 下降)
4号機	-	O.P.+ 2,940 mm (2/6 7:00 から 6 mm 下降)	O.P.+ 2,963 mm (2/6 7:00 から 10 mm 下降)

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約30m	2/6	8:30	ND	0.08	0.06
福島第一 1～4号機放水口南側約330m	2/6	8:15	ND	0.02	0.02
福島第二 3,4号機放水口付近	2/6	8:25	ND	0.02	0.02
福島第二 1,2号機放水口南側約7km	2/6	8:05	ND	0.02	ND

その他、福島県沖合3地点(2/5 採取分)、宮城県沖合6地点(1/31 採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (2/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*1	22.0
2号機	循環冷却システム	運転中	14.2
3号機	循環冷却システム	運転中	24.8
4号機	循環冷却システム	運転中	25

*1 システム二次系エアフィンクーラー：停止中

[2号機]・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

[3号機]・1/14 15:18～ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (2/7 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.3m ³ /h, 炉心スプレイ系:約1.9 m ³ /h)	24.4	24.8	104.8 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約6.5m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.8 m ³ /h)	43.4	69.6	111 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.9m ³ /h, 炉心スプレイ系:約5.8m ³ /h)	41.0	50.0	101.6 kPaabs

[2号機]・2月2日以降、原子炉压力容器底部の温度上昇の傾向が大きくなったことから、原子炉への注水量を増加し、温度の傾向を監視していたが、依然 70 前後で高めの値を示していることから、2月7日午前0時 19 分から午前3時 20 分にかけて、念のため再臨界防止対策として原子炉へのホウ酸水注入を実施し、午前4時 24 分、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.7m³ / h から約 6.7m³ / h に変更(給水系からの注水量は約 6.8m³ / h で継続中)。現在は約 69.6 (2月7日午前 11 時時点)である。引き続き、傾向監視を行う。なお、2月7日に実施した2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体サンプリングの結果、キセノン 135 が検出限界値未満であり、再臨界判定基準を下回っていることを確認している。

[4号機][5号機][6号機]・特に変化なし

<その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を継続実施中。
- ・H24/1/11～ 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)間のトレンチにおける放射性物質を含む水溜まりの発見(H23/12/18)を受け、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始。日々の点検結果については別途参考配布資料を参照

以上